

パンチャーヤト体制下における ネパールの政治と民衆 1981—85 (2)

—マダンクリシュナ・シュレスタとハリバンシャ・アーチャーリヤの風刺笑劇をととして^(*)—

山本真弓

目次

〔1〕はじめに

1. ネパール風刺笑劇の伝統と今日
2. マダンクリシュナ・シュレスタとハリバンシャ・アーチャーリヤのデビューから現在まで
3. ネパール現代史の流れと1980年代前半
4. ネパール風刺笑劇の台本とその資料的価値について

〔2〕『よいしょ・どっこいしょ』（1984年作）の翻訳と解説

1. あらすじと作品の背景
 - ①ピスカル事件
 - ②ゴルカ兵をめぐる世論
 - ③インド人移民とネパール市民権問題
2. 全訳および訳注

以上前号

〔3〕『ゴミ籠』（1983年作）の翻訳と解説

1. あらすじと作品の背景

この作品は、1980年の国民投票を体制側の勝利に導いた功績が買われて首相に再任されたS. B. タパが、政権の座を追われる直前の姿を描いたものである。国家パンチャーヤトのメンバーによって提出された不信任状の国王による受諾でタパ政権が退陣したのは1983年7月11日であり、この作品はその直前に発表されている。

舞台は首相在任中のS. B. タパの自宅。夜、そこへ窓から侵入してきた「男」とタパとの会話で作品全体が構成されている。タパの自宅には様々な高価な調度品とともに、政治家たちの汚職、不正行為などの証拠となる書類を入れた箱がある。しかし、「男」の目

的は金品やこれらの書類を略奪することではない。そもそも「男」は盗みをしに侵入したわけではなく、タパによって奪われたもの、すなわち「我々の権利と自由と尊厳」を取返しに來ただけなのだという。つまり、「男」は、ネパールの民衆の総体を代表する者であり、これに対して、タパは権力そのものなのである。「男」＝民衆、タパ＝権力者、という構図は、この他にも例えば、窓から侵入した「男」を殴り続けるタパに対して「男」がタパの手を遮りながら、「僕にそんなに手をあげないで下さいよ。僕が又、手をあげることになったら、止まらないじゃないですか。1979年以来大きくなったパワーが出てくるかもしれないんだから」という場面からも明らかである。

ところで、「男」が実はただのこそ泥ではなく民衆の総体を代表する者であることを理解しないタパは、様々な便宜を提供して「男」を買収しようとする。しかし、「男」＝民衆の総体である以上、「男」は決して買収されない。民衆の総体を買収することなど、不可能だからだ。にもかかわらず、あくまでも「男」を買収しようとする脳天気なタパに「男」は言う。「あなたは民衆の涙をいったい何だと思っているんですか？」ここで、作者である「マハ」は1960年の国王のクーデタによる議会制民主主義体制の転覆から1979年の反体制運動までの19年間と、1980年の国民投票による体制側の勝利および民衆パワーの後退について、タパの口を通して次のように述べている。「ネパールの民衆ってのは18年か19年に一回しか目を覚まさないし、目を覚ましては又、すぐに眠ってしまうんだ。もっとも、最近になってネパールの民衆の眠りは少しは改善されたって聞いたんで、本当かどうか試してやろうと思って、米の値段をものすごく値上げしてやったんだ。びっくりしたことに誰も目を覚まさない……。」事実、タパの政権在任中、食糧品とりわけ米の価格が跳ね上がり、反タパ・キャンペーンのひとつの材料になったという経緯がある。

こうして「男」を買収しようとするタパは、ついに「男」を大臣にしてやろうと言う。そして、大臣の職務を遂行するのに有力な武器を「男」に紹介する。ネパール製コンピュータと称する、ただのゴミ籠である。この、実はただのゴミ籠にすぎないネパール製コンピュータは、民衆からの様々な請願書や申請書を次々と飲み込んでゆく。ネパール製コンピュータはどんなに手間隙のかかる大変な仕事も一瞬のうちに処理してしまうのである。作品そのもののタイトルになっているネパール製コンピュータ〔ゴミ籠〕は、痛烈な皮肉である。

「男」はゴミ籠の中にクシャクシャに丸めて捨てられている書類を拾い出しては読みあげる。そこには、当時、王室の若者が事件に関与していると噂され、事件の捜査が途中で打ち切られたまま迷宮入りとなった「女子大生強姦殺人事件」の被害者である殺された女

性が、加害者である男性の処分を求める請願書も含まれている。これは、国王およびその関係者について批判的に言及することがタブーとされていた当時の状況下で、かなり際どい風刺であったと思われる。さらに、「男」は「男」の筆跡で、「男」の署名入りの請願書も見つけだす。ゴミ籠に捨てられていた自分の請願書を見つけた「男」は、ついに怒りを爆発させ、タバに首相の椅子を明け渡すことを迫る。「死んでも明け渡すものか」という強気のタバに、「男」は、実はその椅子の下には時限爆弾が仕掛けてあり、セットした時刻がくれば必ず爆発するのだ、と告げる。

当時、タバ政権を攻撃する反政府キャンペーンは、ジャーナリズムなどによって一年以上に渡って繰り返されてきた。この作品が発表された頃は、すでにタバ首相に対する不信任案の可決がもはや時間の問題とされていた頃であり、この作品の結末はそういった当時のS. B. タバをめぐる状況をほぼ正確に描き出している。すなわち、「いつ爆発するんだ、その時限爆弾は？セットした時刻ってのは、いつ来るのか？」と青ざめて問うタバに、明日の朝かもしれないし、たった今まもなくかもしれないし、1～2カ月のうちかもしれないけれど、どちらにせよ「その時刻ってのは、必ず来るんだ」と「男」は言う。そして、命乞いをするタバに「男」が、「時限爆弾を取り外してあげる代わりに、あんた、このゴミ籠の中に入りな」と言って、嫌がるタバを無理やりゴミ籠の中に押し込もうとするところで、幕となる。

S. B. タバは政治家としての指導力を買われて首相に任命され、まさにその強力な指導力ゆえに、王室関係者の反発を買って政権を追われた政治家であった。タバの指導力は、1979年5月に首相に任命されたときから、1981年の第一回国家パンチャーヤト選挙が終了するまでは、パンチャーヤト体制と自らの権力を守ろうとする国王およびその関係者たちにとって都合のよい形で発揮されたが、その後、タバは国王および王室関係者からの政権への干渉を嫌い、政治家としての強力な指導力ゆえに、実質的権限をもたない首相の地位に甘んじることができなかったと言われている。国家パンチャーヤトのメンバーたちがときの首相に対して、不信任状を提出する動きはこの時が初めてではなく、むしろ、当時のネパールの政治状況では日常茶飯事のことであったため、最終的には国王がこれを受理するかどうにかかっていた。不信任案が国王に受理されたのは、S. B. タバが王室の反感を買っていたためであると言われている。タバに対する不信任案が受理されたことを報じた翌日の1983年7月12日付けの『ネパール・タイムズ』紙は「S. B. タバは彼自らが汚職を煽動していたという非難に反駁して、『汚職は今や社会的病理にまでなっており、

どの集団とどの個人がこの悪事を促進しているかは誰もが知るところである』と述べ、これらの集団と個人は『新しいバルダル』であるとした。」と報じ、汚職をはびこらせているのが王室関係者であることを匂わせる発言をしていることを示している。S. B. タパは「新しいバルダル」のことを別のところで、「地下のギャングたち」とも「憲法を超越した分子」とも呼んでいる。

以下、もっぱら『ネパール・プレス・ダイジェスト』の記事をもとに、反タパ・キャンペーンの内容と流れを追いかけてみたい。

S. B. タパに対する攻撃材料となったものには、食糧問題（米不足）や森林破壊、業者への輸出許可証をめぐる不正などがあるが、いずれもインドとのあいだのオープン・ボーダーを巧みに利用した密輸に政府が関与するという政治スキャンダルであった。たとえば、米の突然の値上げは、インドでの米の値上がりに乗じて大量の米がインドに密輸出されたからだ、という見方が一般的であった。非政府系新聞『マトリブーミ・ウィークリー』紙の1982年8月24日付けの記事によると、当時、非合法に活動を続けていた反体制派の政治家ガネーシュ・マン・シンとクリシュナ・プサラド・バターラーイは、凶作という事態に直面してなお、大量の米を輸出するという政府の近視眼的政策を非難するとともに、食糧を買いだめして人工的に食糧不足を作り出しているビジネスマンに対して、政府がしかるべき措置をとれなかったことに懸念を表明している。

1982年8月25日付けの『ゴルカパットラ』紙は、「飢饉の兆候が一年前にすでに表れていたにもかかわらず、政府は何ら注意を払わなかった。食糧危機が切迫していることが認識されてなお、米の輸出許可証を与えているのが一体誰なのか、私はぜひ知りたいものだ」というL. B. チャンドの発言や「政府は民衆の命を弄んでいる。食糧危機にかこつけて非合法的に米の輸出会社を解散し、たったひとりの貿易業者にカトマンズ地区の米の供給を任せてしまうという新しいスキャンダルが生じている。米の輸出会社を解散しなければ、今頃1万5千から2万トンもの米が手に入っていたらうに」という、プラカーシュ・チャンドラ・ロハニ博士の発言も報じている。ロハニ博士の言う「たったひとりの貿易業者」とは、首相のS. B. タパを指すものであろう。注目すべきは、体制派で政府系の『ゴルカパットラ』紙の記事の方がむしろ、タパ批判の論調が厳しいという点である。

S. B. タパの首相在任中に森林破壊が進んだのは周知のことだが、これは、森林破壊が材木の輸出許可証をめぐる不正やインドへの密輸出に絡んだ汚職スキャンダルの結果であることを示している。『ヒマリ・ベラ』紙は1980年4月4日付けで、「材木は材木コー

ポレーションの倉庫ではもはや入手できないが、一方、南の国境を越えてすぐの地域にある民間の製材所や家具製作所には無限にあるといった状態である」と記したうえで、この問題に関係する大臣や政府役人に「自然と国民の意思に反して犯した犯罪の代償をまもなく支払わねばならないだろう」と警告している。また、反体制派で共産党員のバラト・モハン・アディカリが大衆集会で、S. B. タパ首相が材木輸出許可証をビラトナガルのあるビジネスマンに融通し、70万ルピーの賄賂を受け取ったとしてタパを非難したことを『ナヤ・サンデーシュ・ウィークリー』紙〔1980年4月4日〕が報じた。

材木の密輸出は1983年にS. B. タパが政権の座を退くまで続き、これによってもたらされた森林破壊は甚大なものであったという。1982年6月29日には、パシュパティ・シャムシェル・ラナとP. C. ロハニ博士がS. B. タパを、5万立法フィートに及ぶ材木とトラック1万台分の薪を、新しい森林政策が発表される2日前にある個人に安価で売り払ったとして攻撃している。この件に関して、二人が「首相の動機を疑わずにいられようか？」と述べていることを6月30日付けの『ゴルカパットラ』紙は報じている。

密輸は米や材木の他にもさまざまな分野に及んでおり、ネパールはインド側から再度、ネパール政府が密輸を促しているとして非難を受けている。ネパールからインドに密輸出されていたものは、腕時計、ラジオ、カメラ、毛織物、テープレコーダー、計算器、偶像の類、化粧品などで、反対に、インドからネパールへは、ジュート、灯油、ディーゼル、ガソリン、砂糖、豆類、金、銀、銅、鉄、石炭などである。インドは当時、非開放を原則とした経済政策を採っており、外国製品には非常に高い率の関税が課されていたため外国製のラジオやテープレコーダーは極めて高価だった。また、ネパールがインドから密輸入しているものはほとんどが原材料もしくは日常生活の必需品であり、インド・ネパール間で密輸の取引対象となるこれらの品目から、インドがネパールの生命線を握っていることがよくわかる。

ところで、当時の新聞報道によると、反タパ・キャンペーンが本格化したのは1982年からである。L. B. チャンドは1982年の年頭に、S. B. タパを首相に選んだのは国民投票における彼の貢献を評価したからだが、今やタパ政府は汚職と縁故主義、情実主義に塗れている。このような状況が続くならば断固、タパ政府に反対しなければならない、と述べるに至っている。この年の夏までに、反タパ・キャンペーンに加わった新聞は『ネパール・プレス・ダイジェスト』で確認しただけでも17に及んでおり、これに対してタパを擁護したのは、わずか4新聞だけであった。もっともタパ政権を攻撃する側にまわった新聞

は、ネパールの現状の悪化はパンチャーヤト体制そのものに原因があるのではなく、S. B. タパ個人に問題があるのだとする文字どおりの「反タパ」を掲げるものと、パンチャーヤト体制そのものが構造的な汚職、専制、不正、テロ、密輸といったものに冒されているのだとする反体制を掲げるものと分けられよう。

1983年1月23日付けの『ダイニク・ニルナヤ』紙は、パンチャ指導者たちによるところの世にパンチャーヤト制度ほど民主的な制度は他にはないかのようだし、S. B. タパは繰り返しネパールはいかなる政治問題にも直面していないと述べているが、そうであるならば、牢獄が政治犯で溢れるはずはないし、選挙ボイコットも行われなければならないはずだと述べ、依然としてパンチャたちがその演説で美辞麗句を並べていることを明らかにしているが、それから3カ月のちの4月29日付けの『アルパン・ウィークリー』紙では、シラハ・ディストリクトのラハンで行われたパンチャ大会〔4月18日〕の宣言が明確に反政府の立場を打ち出した模様が報じられている。「内閣は全国パンチャ会議で承認された経済計画の実行に失敗した。それどころか、内閣は汚職を積極的に促し、若干の有力な個人と密輸人たちが私腹を肥やすのに手を貸したのである。内閣が実行した誤った経済政策ゆえに、発展の成果は若干名の個人に集中し、その一方で貧しい人びとはより多くの不正と搾取に苦しんでいる。このような内閣にはもはや政権の座に居続ける権利はない。ゆえに、速やかに総辞職すべきである。」この宣言のなかで、繰り返し『若干の個人』という表現が使われていることが注目されよう。

そして、4月25日には、ついに首都のあるカトマンズ・ディストリクト・パンチャーヤトで次のような決議が可決されるに至った。「今日、国家が直面している諸問題は、内閣が自らの責任を顧みず、むしろ積極的にこれらの諸問題を強化していることを示している。その結果、一般の人びとの生活はますます悲惨なものとなっている。ここに、カトマンズ・ディストリクト・パンチャーヤトは内閣を非難するものである。」(『サンデーシュ・ウィークリー』紙、4月29日付け)

6月に入ると、内閣不信任案の動きが持ち上がり、6月24日には国家パンチャーヤトのメンバー41名がこれに署名している。不信任案が国家パンチャーヤトに提出されるには、少なくとも3分の1のメンバーの署名が必要とされ、さらに提出されたのち、全メンバーの60%の支持を必要とする。そしてさらに、国王がそれを受理することによって成立する。6月27日付けの『ゴルカパットラ』紙は、S. B. タパが政府内の反タパ勢力に対して闘う姿勢を6月26日の国家パンチャーヤトで表明していることを報じたが、7月に入ると、

不信任案に署名した国家パンチャーヤトのメンバーは88名に達し、7月11日、圧倒的多数の支持を得て可決された。しかも、その前日、すなわち7月10日にはすでに多くの大臣が自ら職を辞するに至っていた。国王は、国家パンチャーヤトで可決された内閣不信任案をその日のうちに受理している。

(*) 前号では、マダンクリシュナ・シュレスタをマダンクリシュナ・シュレシュタと、ハリバンシャ・アーチャーリヤをハリワンシュ・アーチャールヤと表記している。ネパール語の表記法はいまなお定まったものが確立されておらず、したがって、日本語にその音を写しとるにも困難が伴うが、ここではネパール語文学研究者である野津治仁氏の意見に従って上記のように改めた。

2. 全訳および訳注

登場人物 男—ハリバンシャ・アーチャーリヤ

S. B. タパーマダンクリシュナ・シュレスタ

—舞台はひとりの金持ちの豪華な部屋。その部屋には、テレビ、デッキ、冷蔵庫、電話、素晴らしいソファなどで飾られている。その部屋の窓によじ登って、ひとりの男が中に入ってくる。そして、ぐるりと部屋中を見まわし始める。

男)〔周囲を見渡して〕なんて大きな金庫！なんて素晴らしいステレオ・テープレコーダー！ああ！金庫にテープレコーダーに、扇風機に冷蔵庫に、真っ白な箆箆に電話！もしもし！この家にはなんて素晴らしい調度品が揃っているんだ！全然封を切っていないジョニー・ウォーカーの壺！他にどんなものがあるんだ？〔箱を開けて中を見ながら〕書類！くそっ、書類ばかりじゃないか！何の書類だ、これは？「パンチャ総会で出費した裏金の明細①」(笑) こんな裏金も存在しているのか？これも何かの役に立ちそうだな。あれっ、僕の鞆はどこだ？家だ！(笑)「選挙のとき手を貸した人びとの名簿—将来の高官候補」(笑) ひええー、こんなものまであるのか？！「解雇すべき知識人たちの名簿」(笑)「水増し票を操作して送ってくれた県のリスト」(笑)〔外から誰かがやって来る音がする〕ん？誰だ？

タパ)〔中に入ってきてながら〕おーい、ラームバハドゥル、ラームバハドゥル！おーい、

ラームバハドゥル！！お前にはしょっちゅう言って聞かせないと駄目なのか！？今日はうちの女主人が実家に帰っているから、家のことをしなくちゃならないだろ！？スクール⁽¹⁾を外に置いたのは、一体誰だ？スクールを中に入れてチュクル⁽²⁾を持って行け！
(笑) スクールを中に入れてチュクルを持って行けって言ったのに、チュクルを中に入れてスクールを持ってきやがった。(笑) えーい、あっちへ行け、行け。行けたら、行け。
何、顔をじっと見てるんだ？おい、ラームバハドゥル、ラームバハドゥル！行けって言うが早いか、行ってしまいやがった。まだ、言うことが終わってないのに。(笑)〔ソファに誰かが眠っているのを見つける。びっくりする。が、しばらくして得意になり〕
なあんだ、いったい誰が来て眠っているのかと思ったら、お前か。おい、お前。明日の朝、弟の息子の喰い始めの儀式があるって言ってんじゃなかったのか？こんなところに居て。実家に行くわって言ったのに。〔ソファに眠っている男が僅やかに動く〕(笑)
なんて寝相が悪いんだ。(笑)〔電話が鳴る〕えーい。なんてときに電話がかかってくるんだ、全く！もしもし！もしもし！！ああ、こんばんわ。誰だ？秘書の家かって？あんたの亭主に電話を代わりたまえ。え？あんたがご亭主だって？(笑) どうしてそんな声でしゃべっているんだね？あんまり飲みすぎるなよ。失礼じゃないか。で、寝る頃になんで電話なんかかけてきたんだ？え？明日の演説の原稿を書き始めたって？よし、結構だ。で、その演説には「国民投票は我々の勝利の一例だ」という一文を必ず入れておくんだぞ。⁽³⁾え？聴衆はもう、飽き飽きしているって？それがどうした。(笑)それが要点なんだから、我々の。要点だよ。要点。〔ソファの方を見る。眠っている男がずり落ちそうになっているので〕ちょっと待て。おい、お前。なんて寝方をしているんだ。ずり落ちるじゃないか。(拍手) ちょっとあっちへ行け。もしもし。おい、今朝の演説の原稿は誰に書かせたんだ？まったく！聴衆はみんな笑っていたじゃないか。なんて言えばいいんだ？今さら。私の前にしゃべった奴と全く同じことを私もしゃべってたんだから。(笑)カーボン紙を敷いて同じ演説を二人の人間に渡してたんだ。(笑)演説が終わる頃になって、やっと気がついたんだ。(笑)で、そいつの顔も真っ赤っか、私の顔も真っ赤っか。(笑)もしもし。おい。くそ！電話を切りやがった。〔眠っている男を見て〕おい、お前。今日はどうしてそんなに背が高いんだ？え？(笑)ハイヒール履いて眠っているのか？(笑)

男)〔声音を変えて〕灯りを消して下さらない？(笑)

タバ) え？

男) 灯りを消して下さいな。(笑)

タパ) お前、その声はいったいどうしたんだ？声がどうにかなったのか？(笑)〔足を見て〕ひえーっ！足にまで、長い長いすね毛が生えている！(笑)〔男だとわかると〕泥棒！泥棒！泥棒だっ！！おおい、泥棒だ！つまみ出してやる！いったい全体誰の家に盗みに入ったか、わかっているのか！？鼻をへし折ってやろうか？誰の家だと思っているんだ？え？私が誰だか、知っているのか？

男) 知っていますとも。

タパ) 知っているって？だとすれば、前に、ことばを交わしたこともあるはずだぞ。

男) ありますよ。

タパ) あるって？どこでことばを交わしたんだ？

男) こないだ、ええと、数年前になるかな。あなた刑務所に入っていたでしょ。そのとき僕もそんなかに居たんですよ。⁽⁴⁾(笑)で、そのとき、あなたはいろんな要求を出してハンストしてたでしょ。そのとき、ボールチャール(ことばを交わ)したんですよ。(笑)思い出して下さいよ。

タパ) そんなものは、ボールチャール(ことばを交わ)したとは言わないんだ。私のチャール(行動)があっただけじゃないか。ボールを抜きとって捨てたんだろうが、そっから。(笑)お前、こそ泥のくせに、私の友達になりすまそうとしているのか！〔男を殴りながら〕それっ、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、……。

男)〔手で殴られるのを遮って〕僕にそんなに手をあげないで下さいよ。僕がまた手をあげることになったら、止まらないじゃないですか。(笑)1979年以来大きくなったパワーが出てくるかもしれないんだから。(笑)

タパ) 1979年以来のパワーだって？刀でも持ってきたのか、君は？

男) 刀も持ってきたよ。

タパ) 持ってきたって？

男) ああ。

タパ) どこにあるんだ、その刀は？

男) 窓をよじ登って来るとき、刀は滑り落ちて、カバーだけがここにあるよ。(拍手)

タパ) カバーひとつで身を守って、私のこんな家に盗みに来たのか？お前の名前はなんて言うんだ？

男) ハリバンシャ・シャルマー。(笑)

タパ) ハリバンシャ・シャルマーよ。私の家に盗みに入るなんて、大胆な奴だ。(笑)

男) 他の家に盗みに入ったって、盗むようなものは何もない。こないだ、ある家に盗みに入ったら、そこはたまたま貧しい労働者の家だったんだ。ルピヤーン(お金)あるだろうと思ってお金入れに手を突っ込んだら、ウピヤーン(蚤)しかいなかったんだ。(笑)
もっと他にいい場所がないか、教えて下さいな。

タパ) 盗みに入る場所を私が君に教えなきゃならんのかね? 警官の家に盗みにお入りなさいませな。こそ泥くん。え? 勇気があるかね?

男) 勇気? あるに決まっているじゃないか? この世でもっとも大きい象、その象より大きいのは息子の胸って言うんだぜ。⁽⁵⁾ (笑) とすれば、同業者の家に何を盗みに入るんだい?⁽⁶⁾ (笑) 共食いになるだけじゃないかって、懸念するんだけど、僕。(笑)

タパ) 共食いになるだけだって、懸念するって?

男) ええ。

タパ) 共食い……! 警官が怖くないのか、お前?

男) どうして怖いのか? 僕たち、友達だよ。

タパ) ワ……ワ……ワ…… (笑) 友達……。警官のことを友達だなんて言って、お前、恥ずかしくないのか? (笑)

男) 恥ずかしくなるようなことは何もしていないじゃないですか。

タパ) ワ……ワ……恥ずかしがるようなことは何もないって?

男) 実際、ここにだって、僕、盗むためにやって来たんですか? 僕はあなたが嘘を付いたり、騙したり、横領したり、説き伏せたり、隠したり、脅かしたりして、大切なものをここに持って来たって聞いたもんだから、それらを力づくでも奪い返そうと思って来たんですよ。盗みに来たわけじゃありません。

タパ) 何だって? 何て言ったんだ? 私が、嘘を付いたり、騙したり、横領したり、説き伏せたり、脅かしたりして何をもって来て、ここに置いているって? どんなものかね、それは?

男) どんなものかって? それは、我々の権利、自由、尊厳、そして正義だ。(笑) それらをあなたが盗んで持って来て、隠して置いてもいいんですか?

タパ) 誰が君にそんなことを教えたんだ? 私がここに、権利や自由や尊厳や正義を隠しているって、誰が教えたんだね?

男) 誰かに教わる必要なんてないよ。米を買うのに長い列に並ばなくちゃならないでしょ。

そんなふうにして自然にわかるんだ。(笑) 薬が飲めなくて、助かる者も助からずに死ななきゃならないでしょ。そうやって自然にわかるんだよ。道端で袋ん中にもぐって眠らなきゃならないでしょ。⁽⁷⁾ そうやっておのずからわかるんだ。誰にも教わる必要はないよ、そんなこと。(拍手)

タパ) 君、暑そうじゃないか。扇風機を回そうか？(洋酒の壺を見せながら) ちょっと、やろうか？やろう、やろう。ここに来たまえよ、ここに。(笑) 君はその、権利とか尊厳とか自由とか正義とかが欲しい。そうだろ？欲しいんだね？全部もって行きたまえ。今日から、権利も自由も尊厳も正義も、みんな、君にあげよう。宴会だ！宴会をしたまえ。もう君は米を買うのに列に並ぶ必要はないんだよ。米の方から列を飛び越えて君の家にやって来るんだ。(笑) いいかい。今や米がだな、君の家に列を飛び越えてやってくるときには、米の前にはファンタが、後ろからはジャンタ(ナス)がくっついてくるんだ！そして、左右には、ビアー(ビール)にウスキー、その真ん中に君が坐るチェアー(椅子)！！(笑) どうだい、お気に召したかね？(笑)

男) 違う！僕はウスキーやビアー(ビール)のことなんか考えていない！あなたは民衆のティア(涙)をどう思っているんだすか！？(笑)

タパ) そんな民衆のことなんか、どうして気にかけるんだね？君、いいかい、ハリバンシャ・シャルマーよ。ここネパールの民衆ってのは、クンバカルナの、そのまたクンバカルナなんだぞ。⁽⁸⁾ わかるか？クンバカルナは少なくとも6ヶ月毎に一度は目を覚ます。が、ネパールの民衆ってのは、18年か19年に一回しか目を覚まさないし、目を覚ましても又すぐに寝入ってしまうんだ。⁽⁹⁾ (拍手)

もっとも最近になって、このネパールの民衆の眠りは少しは改善されたって話した。ネパール人たちの眠りは浅くなったんだそうだ。それを聞いて、本当かどうか試してやろうと思って、米の値段をものすごく値上げしてやったんだ。びっくりしたことに、誰も目を覚まさない。(笑) それだけじゃまだ足りないから、今度は村議会議員や町議会議員、それに市長や副市長など、民衆の代表をいつでも解任できるような、あってはならない制度を作ってやったんだ。⁽¹⁰⁾ それでも、誰ひとり、目を覚まさない。(笑) だから、あんた、自分が何をして欲しいかだけ言えばいい。私が何でもかなえてあげよう。勲章で身を飾りたててやろうか？こんなすごい金の勲章を胸に光らせたなら、どうするかね。君、言ってみたまえ？え？言ってみたまえよ。

男) きのうまで何も持っていなかった男が、明日から金の勲章を胸に付けて歩いたら、泥

棒って言われるじゃないか！要らないよ、そんなもの。あんたが身に付ければいだろう。

タパ) 君が勲章を付けたからって、誰が君のことを泥棒だなんて言う？そのために、ものすごく素晴らしいラベータ・スルワールを着て、その上に黒いコートを羽織り、頭はダーカ・トーピーで、足もとは黒い靴で着飾れば、⁽¹¹⁾泥棒だってことはわからなくなるさ。
(笑) どういうことかって言うのだな、ラベータ・スルワール、黒いコート、ダーカ・トーピーに靴を履いて歩けば、様々な人間がやって来て、どうかこれをして下さい、あれをして下さいって言って、御機嫌を窺いに来るんだ。だからと言って、そんなこと、気に病む必要はない。そのために私は「ネパール制コンピューター」を都合したんだ。いいかい。18年も20年もかかる仕事だって、このコンピューターにかければ、一瞬のうちにおしまい！知っているかい、君、この「ネパール制コンピューター」を。見たことないだろ？(ひとつのゴミ籠をもって来て、男に見せる)

男) どこだ？どこにあるんだ、「ネパール制コンピューター」は？

タパ) 見えないのか？見てるじゃないか？

男) この、竹で編んだゴミ籠が、「ネパール制コンピューター」なのか？

タパ) こら！ゴミ籠って言うな。気を悪くするじゃないか、私のコンピューターが、いいか。18年も20年もかかるような仕事も、ここに入ればすぐに片づくんだ。どれほどの計画を書いてここに入れたか、わからないよ。(笑) どれほどの申請書を片づけたかわからないさ、このコンピューターで。読んでみたまえ。どんなことが書いてあるか。

(男はゴミ籠の中の書類を取り出して読む)

男) 「調査委員会⁽¹²⁾の委員の賃上げに関する請願書」これも、ゴミ籠に？

タパ) ああ。読んでみたまえ、他のも取り出して。

男) (他の書類を読む) 「強姦した若者に対する処分を求める若い女性の請願書」これも、ゴミ籠に！？(笑)

タパ) 今じゃ、もう、このコンピューターもちょっとばかり小さくなって間に合わなくなったから、ここに未処理の書類がいっぱい溜まっているんだ。

男) (再び、他のを抜き取って読む) 「吊り橋の建設に関する草案」これも、ゴミ籠に！？

タパ) ああ。他のもあるよ。読んでみろよ。(笑) どんな難しい仕事も一瞬のうちに片づくんだ。

男) 何の請願だ、これは？この筆跡は僕のと似てるぞ。「請願書。ハリバンシャ・シャル

マー」(笑)ということは、僕の請願書も、ゴミ籠に！！

タバ) (慌てて) これは秘書の仕業だろう。秘書が…、やったことだ。

男) 秘書がやったんじゃない。(怒りながら) 酒を飲みながら、あんたがやったんだろう！？

タバ) いや、私もよく知らないんだ。どうして怒るんだね。君。君の請願書はこっから取り出しておくさ。なんてこった！

男) ここにある請願書を取り出すんなら、僕のだけ取り出すんじゃない。ここにある全部の階層の人びとの請願書を取り出しなさい。労働者の請願書も、公務員の請願書も。

タバ) なんてことを言うんだね、君は！？このゴミ籠の中の請願書を全部取り出したら、請願書たちが私を、この仕事からひっこ抜くじゃないか、ハリバンシャ・シャルマー。
(笑) だがな、私を今、この仕事からひっこ抜いてしまったら、この国は大変な災難に見舞われることになるぞ。ハリバンシャ・シャルマー。この国は大変なことになるぞ。どうしてかと言うと、私の地位に就けるような人間は、今やこの国には誰もいないからだ。(拍手) 以前、ひとり居たけれども、こないだいっちまった。⁽¹³⁾ (笑)

男) あんたの地位に就く人間なんて、いっぱいいるさ。

タバ) 誰だい、私の地位に就く奴ってのは？

男) 僕が就けるよ、あんたの地位に。(笑)

タバ) そんなふうにも、就けるよって言って手に入るもんかね。この地位は？二人は就けないんだぞ。私は命をかけてでも、この地位は捨てない。(笑)

男) あんたが命をかけてでも手離さないって言ったからって、どうなるってんだい？あんたのこの席、あんたが今、坐っているその椅子の下に、時限爆弾を仕掛けてあるんだぞ。あんた、手離さないぞって言ったからって、時限爆弾から逃れられるのかい？

タバ) いったいどこの話をもって来たんだね？私の椅子に時限爆弾を仕掛けたって？いつ爆発するんだ、その時限爆弾は？

男) だから、セットした時刻が来れば爆発するんだ。(笑)

タバ) だから、そのセットした時刻ってのは、いつ来るのか聞いているんだよ、私は。

男) セットした時刻ってのは、もし夜行バスで来たら、明日の到着くし、(笑) 飛行機で来たら、たった今、まもなく到着するし、歩いて来れば1～2ヶ月のうちに着くだろうよ。⁽¹⁴⁾ どちらにしる、その時刻てのは必ず来るんだ。(笑)

タバ) おい、ハリバンシャ・シャルマーよ。その、私の椅子の仕掛けたとかいう時限爆弾、椅子のどのあたりに仕掛けたのかね、ひとつ、取り出してみてくれたまえ。(笑) 取り

出して、捨ててしまおうじゃないか、え？ハリバンシャ・シャルマー。いいか………かって君は私に請願書をもってきた。今日、私は君に請願書を提出しよう。(笑) え、ハリバンシャ・シャルマーよ。その時限爆弾を抜き取って捨ててしまおうじゃないか。(笑)

男) あんたの言うことを、僕、きいてあげよう。爆弾も抜き取って捨ててあげよう。

タパ) ああ………助かった。ありがたい。

男) 僕があんたの言うことをきいてあげたんだから、それじゃあ今度は、僕の言うことをあんたがきく番だ。そうだろ？

タパ) ああ、そりゃあ、そうだ。

男) だったら、言うことをきくんだな？

タパ) きくよ。きくってば。

男) 必ず？

タパ) 必ず。

男) 誓って？

タパ) 誓う、誓う。

男) 嘘ついたら、牛の肉を食べるか？⁽¹⁵⁾

タパ) 食べるよ。とほほ………。

男) 嘘ついたら、選挙のときインチキ票を操作したこともばらすぞ！⁽¹⁶⁾

タパ) なんてことだ、そんなことまで誓わせるのかい？(笑)

男) 森林で木を切り倒していることもばらすぞ！

タパ) わかった、わかった。インチキ票にも森林にも誓って、必ず言うことをきくよ！

男) だったら………その椅子に仕掛けた時限爆弾は取り出して捨ててあげるから、その前に、あんた、このごみ籠の中に入りなさい。

タパ) なんてことを言うんだね！君は。(笑)

男) 入らなくちゃダメだよ。さ、入りなさい。

タパ) 何を言い出すんだ。私が先にこのごみ籠の中に入ったら、私の椅子の時限爆弾を取り出すなんてこと、問題にもならないじゃないか！

男) [無理矢理タパをごみ籠に坐らせようとしながら] さあ、入りなさい。入らないとダメだ！

タパ) いやだ、いやだ。やめてくれえ。

男) さあ、入りなさい。ごみ籠の中に入りなさい!! (笑) (拍手)

—幕—

訳 注

訳注をつけるのに際しては、もっぱら政治と民衆という本稿のテーマに関係ないと思われる言語学的もしくは文学的観点から興味を惹くであろう表現については、注で解説することを省略した。具体的には、作者であるマハが語呂合わせやことば遊びによる表現上の工夫を用いて観客の笑いを引き出している部分で、これらの台詞は日本語に訳しても意味をなさないだけでなく、本稿のテーマからはずれるからである。しかし、訳文中に挿入した観客の反応(笑いや拍手)の意味を理解するうえで必要なので、語呂合わせやことば遊びなどの表現上の工夫がなされている部分には、下線を付している。

- (1) 藁で編んだネパールの御座。
- (2) 扉の内側からだけかけられる鍵のない錠前。
- (3) 国民投票では、パンチャーヤト体制支持派が政党政治導入派にわずかの差(9.6%)で勝利した。この数字の意味するものについては、前号〔1〕-3. を参照。
- (4) ネパールの政治家で逮捕歴のある者は少なくないが、S. B. タパもそのひとりである。彼は、パンチャーヤト体制下では体制支持派の政治家であったが、同時に、政府批判を躊躇なく行う力強さをもっていた。
- (5) ネパールの諺より。
- (6) ネパールでは、政治家、大臣のことを(俗語的表現として)「泥棒」の同義語としてもちいることは珍しくない。
- (7) 当時、ジュートでできた米袋に身を包んで路上で眠る人びとが目立ったという。カトマンズには、インドの大都市に見られるような路上生活者の群れは通常見られない。
- (8) ネパールの神話に登場する人物。一年のうち6ヶ月間眠り続ける。
- (9) 1959年選挙によって成立したネパール会議派政府が国王のクーデタによって1960年に倒されて以来、1979年に大規模な反対制運動が起こるまで18~9年の年月を要したこと、および1980年の国民投票でパンチャーヤト体制派が勝利したのち反体制運動が下火になっていることへの皮肉。
- (10) タパ政府は、当時まだ1979年以来の力が残っていた政党政治支持派の力を押さえ込む

ために、選挙で選出された政治家たちのなかで政党政治を支持する者がいれば、ただちにその地位を解任するという法律を成立させた。

- (11) ネパール男性の正装。大臣たちが身につける服装。
- (12) 当時は、様々な問題を調査する調査委員会が次々に作られていた。
- (13) 1982年に亡くなったネパール会議派のB. P. コイララのこと。彼はネパール会議派という党派色を越えた反体制派の国民的な指導者だった。
- (14) ネパールの交通事情に対する皮肉。
- (15) ネパールでは牛を殺すことは法律で禁止され、殺人以上の重罰に問われる犯罪とされている。また、ヒンドゥー教徒は宗教的見地より牛肉は食べてはいけないものとされている。
- (16) 選挙のときの票の操作には様々な方法がある。たとえば、一人の人物が複数の名前で選挙登録をしたり、投票済みであることの印として指につけられるインクを消して再投票するなどである。